直圧式サンドブラスター 取扱説明書

このたびは、直圧式サンドブラスターをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用の前に必ずこの「取扱説明書」をよくお読みください。お読みになった後は、いつでもご確認できるよう大切に保管してご利用ください。
直圧式サンドブラスターを正しく利用し、人体や財産への損害を未然に防止するため、使い方や設置の仕方の誤ったときに生じる、危害や損害の程度により次の表示で区分し、説明しています。

1. はじめに

下記マークのある注意事項及び、指示内容に関しては必ずお守りください。

⚠警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を表しています。
⚠注意 この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を表しています。

●取り扱い上の不備または天災などによって発生する事故、損傷に付いて、当社は一切責任を負いかねます。
●本製品は品質改良のため、仕様を変更することがございます。
その際には、この取扱説明書の内容・イラストの一部が本製品と一致しない場合がありますので、ご了承願います。
●この取扱説明書の作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発覚してもただちに修正できないことがあります。

2. 安全上のご注意

⚠警告

● 誤った使用によるけがや損害を防ぐために、使用前にこの取扱説明書をよく読み、注意事項・使用方法・メンテナンス方法をしっかりと把握して下さい。
●本書に記載の無い使用方法によるけがや損害に対して、当社は一切責任を負いません。安全でより長くご使用いただくため本書の指示に従って下さい。
●使用前に、本製品にエア漏れ、亀裂、腐食、部品のゆるみ、破損がないか点検して下さい。破損や異常がある場合はただちに使用を中止して点検、修理をしてください。
●ご使用の前に安全弁が 1100kPa までに作動することを確認してください。安全弁が作動しない場合は、重大な事故に至る場合があります。ただちに使用を中止して点検修理を依頼してください。
●本製品の最高使用圧力は 862kpa です。コンプ レッサーからの供給圧が高い場合は、必ず減圧弁を設置の上、最高使用圧力を越えない適切な圧力でご使用ください。
●製品に強い衝撃をあたえたり、落下させないように充分に注意して取り扱ってください。タンクが破損しますと部品の飛散や圧縮空気の吹き出しにより、たいへん危険です。
●マグネシューム合金の吹きつけは発火の恐れがありますので
絶対にしないでください。

⚠注意安全のために必ず守ってください

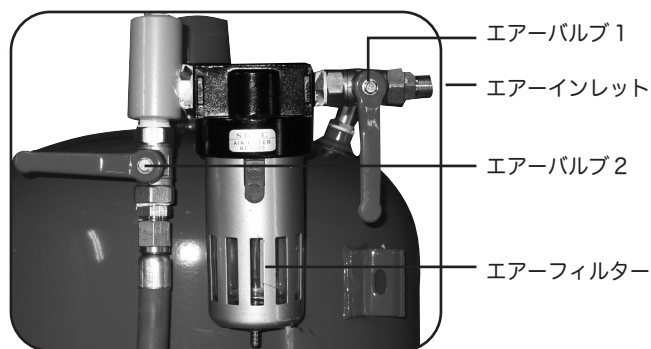
この取扱説明書にある警告や注意事項は、起こりうる条件や状況などを全てカバーできません。オペレーターが常識を持って、細心の注意を払って作業を行ってください。
●使用後は、必ずタンクの残圧とドレンを抜いてください。
●不当な改造、調整、分解、部品交換などをしないでください。
破損やケガの恐れがあります。

●本製品のタンク内圧力計の単位は psi(ポンド毎平方インチ) になっています。
●圧力単位の換算
・1 psi = 6.89kPa・60psi = 689kPa・100psi = 689kPa
・125psi = 862kPa 他の空圧機器との併用の場合は単位換算をして注意して使用して ください。●タンクを開ける前に、圧力がかかっていないか、ゲージが“0”になっているかを必ず確認し、コンプレッサーの電源プラグを抜いてください。シャットオフ付ノズルを通して減圧します。
●サンドブラストガンから研磨材が勢いよく出てくるので注意して、絶対に人に向けないでください。
●サンドブラスターを使用する際、必ず防護服・防護マスク・保護メガネ・グローブを着用してください。研磨材やごみを吸うと危険なため、マスクやフィルターで口を覆ってください。
●周りにある物で、作業をすることによって破損する恐れのあるものにはカバーをしたり、別の場所に移動するなどしてください。

3. 製品の説明

【用途】
●コンプレッサーのエア圧力を利用して、研磨材をの粒子を吹き付けてペイントや錆、汚れを落とします。
●金属の塗装前の下地処理、加工後のバリ取りなどの処理に使用できます。
【特徴】
●軽量、コンパクトで持ち運びに便利なキャリータイプです

4. 仕様・各部名称

仕 様
●タンク容量 :10 ガロン
●ホース長さ :2.5m
●使用空気圧範囲 :60 〜 125psi
410kPa 〜 860kPa
●本体サイズ : 幅 330× 高さ 860× 奥行 480mm
●重量 :19kg

5.組　立

【注意】エアの圧力のかかる、全ての接続部分にシールテープを使用し、
確実に締まっているかを確認してください。

1. ネジ 4 本･ワッシャー 4 つ･ヘックスナット 4 つを 使用して、ハンドルバーを 2 つ (ハンドルのカーブが 上向 きになるよう) 取り付けます。
2. ハンドルバーの横にある穴に車軸を通し、キャスターを 1 つずつ割りピンとワッシャーで取り付けます。
3. タンク下部の端に割りピンで脚を取り付けます。
4. サンドブラストホースをタンク下部のサンドバルブ部分の確実に奥まで差込ホースクランプを締付けてください。
5. エアーインレットの適合の接続カプラーを取り付けてください。
※(別売品)
6. 作業をする前に、それぞれの接続部がきちんと締まっているか再度確認してください。

6. サンドの選び方

●サンドの種類によって、表面をきれいにする時間に大きく影響が出ます。材質はアルミナ・ガーネット・ガラスなどがあり、使用する際は必ず完全に乾いているかを確認してください。サンドが湿っていると、サンドブラスターに詰まる恐れがあります。
●一度使ったサンドは、磨り減って丸くなっているので研磨作用が劣ります。またごみが混ざっているため、詰まる原因となるので注意してください。
※注意 !!
オイラー付きの減圧弁は絶対に使用しないでください。
サンドにオイルが混じり詰まりや研磨能力の低下の原因となります。

7. 使用方法

1. サンドが乾いているか確認してください。
2. 防護服・防護マスク・グローブなどを必ず着用してください。
3. エアーバルブ 2 をＯＦＦ(水平) の位置に回します。
4. サンド供給バルブ ＯＦＦ(水平) の位置に回します。
5. シャットオフバルブ付ノズル握り開放します。
6. 圧力ゲージを見て“0”になっているかを確認してください。
7. タンク上部のフィラーキャップを外します。
8. 付属のファンネルを使って、タンク内にサンドを入れます。
※湿度が 90 〜 100%の場合、エアーフィルターはタンクの水分を取り除くことができないので、サンドの量を減らして必要な分を足すようにし、常にエアーフィルターを空にすることで、サンドの詰まりを防ぐことができます。
9. タンクにサンドを適量入れ、フィラーキャップを確実に閉めます。
10. エアーインレットにコンプレッサーエアーを接続しエアーバルブ 1 を ON (水平) の位置に回し、エアーバルブ 2 を ON(垂直) の位置にまわします。
11. コンプレッサーからの圧力がかかり始めた時に、フィラーキャップからエアーが漏れていないか確認してください。
12. サンドバルブをを ON(垂直) の位置にまわします。
13. シャットオフバルブ付ノズル握りればサンドが噴射いたします。

8. 減圧方法

1. エアーバルブ 1 をＯＦＦ(垂直) の位置に回します。
2. エアーインレットのコンプレッサーエアーを外してください。
※エアーの取外時はエアーバルブ 1 は必ずＯＦＦ(垂直) にしてください。
ＯＦＦ(垂直) にせず取外すとタンク内の圧縮エアーがエアーインレットから逆流して 450kPa (65psi) 以上の勢いで出てくるので注意してください。
3. サンドバルブをＯＦＦ(水平) の位置にまわします。
4. シャットオフバルブ付ノズル握りタンク内のエアーを抜きます。
※サンドバルブは閉じていますが、サンドホース内にサンドが残っている場合がありますのではシャットオフ付バルブから微量のサンドが噴出しますので注意して作業を行なってください。
5. 圧力ゲージを見て“0”になっているかを確認してください。
6. 圧力ゲージを見て“0”になっていれば減圧完了です。

9. メンテナンス

1. 本製品が破損しないよう取り扱いに注意し、常にきれいな状態を維持してください。
2. サンドブラストの作業により、エアーコンプレッサーが破損しないよう別々に保管し、長いホースを使用して距離を空けてください。また、コンプレッサーの基本的なメンテナンスを欠かさないようにしてください。
3. 毎回作業後は、ゲージが“0”になるまで圧力を完全に減圧してください。
4. 初めて圧力をかける際、タンクの上・ホース・部品などから漏れていないか点検してください。ジョイント部分が漏れていたら、シールテープを張り替えて修復してください。
5. エアーやサンドが通るサンドホース・セラミックノズル・金属継手・シャットオフバルブは、他の部分よりも早く磨り減るので注意しておいてください。
6. 万一それらの部分から空気が漏れていたら、作業を止めどの部分に修理または交換が必要かを点検します。
7. 圧力をかけホースをゆるく握ります、すると漏れているかどうかや、ホースのどの部分が薄くなってきてい　るかがわかります。
それらは気泡となってホースに現れるので、見つけ次第すぐに新しいホースと交換してください。気泡が破れる と、サンドがそこから 450kPa（65psi）以上の勢いで出てくるので注意してください。